

ITOSUGI



いとすぎの丘



新入生合宿研修



体育祭

オープンキャンパス

Pick Up



7月23日・8月27日にオープンキャンパスを開催しました。昨年よりも多い976名(2日計)にお越しいただき、模擬授業、キャンパスツアーなどを通じて、看護大学での学び、本学の雰囲気を感じていただきました。



いとすぎ祭

■ 学生生活

いとすぎ祭・体育祭
新入生合宿研修
平成23年度後援会会長挨拶
東日本大震災・復興支援活動
～被災地へ学生ボランティアとして
行って思ったこと～

■ 大学の活動

公開講座
オープンキャンパス2011
Academic Library
研究の窓

■ 学生生活

サークル紹介
RCT☆LINK

■ Information

いとすぎ祭

第8回いとすぎ祭を終えて

いとすぎ祭実行委員長 3年生 加藤 成美

私たちいとすぎ祭実行委員は、3月11日の東日本大震災を受け、実行委員全員が「赤十字の学生にしかできない、今だからこそできる大学祭にしたい」という思いで一致団結し、「ONE+ALL～私が、みんなができること～」というテーマで、企画・準備に取り組んできました。当日は、実際に被災地で救護活動に参加された赤十字病院の看護師による講演や、学生による震災ブースやヘルスチェックなど、赤十字の学生らしい大学祭を開催することができました。ステージ企画



では、バンドやダンスなど有志の方々の参加が多数あり、学生皆の力でより一層盛り上がることができました。また、悪天候にも関わらず多くの方にご来場いただき、無事に大学祭を終えることができました。いとすぎ祭の運営にあたりお力添えいただいた教職員の皆様、地域の皆様、学生の皆様、本当にありがとうございました。



体育祭

体育祭を終えて

体育祭実行委員長 3年生 石川 千秋

今年の体育祭は、学年による偏りのないチーム分けをし、競技を行いました。日常では関わることのない他学年の学生と競技を行うことができ、大変好評でした。また、今年度は新たに学内の売店で利用できる券や食券を景品として用意す



るなど、大学職員の皆様にも体育祭の運営に携わっていただきました。

体育祭の企画・運営にあたっては、集まる時間の少なさから、なかなか思うように準備が進まず、1人1人の役割が増えていき大変苦労しました。しかし、当日はスムーズに進行することができ、参加された皆さんの楽しむ様子、競技に取り組む姿を見て、達成感を得ることができました。

体育祭を成功することができたのは、ご協力いただいた教職員の方々、購買・食堂の方々、参加して頂いた皆様、そして何より、一緒に企画・運営に携わってくださった体育祭実行委員の協力のおかげだと思います。ありがとうございました。



新入生合宿研修

赤十字の誓い

1年生 原田 あすか

4月12日・13日、私たち1年生は新入生合宿に参加しました。それまではオリエンテーションや授業に慣れることに忙しく、入学式以外には赤十字に触れる機会が少なかったため、赤十字で学ぶ学生としての意識はまだ十分ではありませんでした。しかし、この合宿であらためて赤十字とはどのような組織なのかを学び、明治村では赤十字ゆかりの建物を巡り、赤十字の学生であることを実感することができました。それだけではなく、それまでは席の近い友人が多かったのですが、グループワークなどを通じて、なかなか話す機会なかった友人とも親しくなりました。もちろん、以前の友人とは更に絆を深めることができました。また、



合宿中には「大学に入って大切にしていきたいこと」というテーマで話し合いをし、成果を発表しました。協調性、予習復習、赤十字で学ぶ学生としての自覚をもつ…etc。実際に、今それらを大切にしているのかな？合宿で誓った初心を大切に、これからの大学生活を過ごして行きたいと思います。



後援会

平成23年度後援会 会長挨拶

後援会会長 川崎 俊夫

後援会会長の川崎です。平素は後援会活動にご協力いただきましてありがとうございます。

さて、今回の大震災における日本赤十字社の直接、間接にわたる支援活動につきましては、日本赤十字豊田看護大学に子供を学ばせている親として大変誇りに思います。また5月に開催されました「いとすぎ祭」では、学生



によるテーマの選定や運営等に対して、日赤に学ぶ学生としての自覚と使命感を感じました。これからの「いとすぎ祭」のあり方に一石を投じる催しとなったと思います。

後援会としては、総会や役員会での承認をいただきながら「いとすぎ祭」に対する運営資金援助を行いました。また、3年後の10周年記念行事に対する援助の積み立ても行っています。このような節目を経ながら優秀な人材が立派に羽ばたいていくことを願っています。

今後も学生の人材育成や大学の発展に貢献できるように努力したいと思いますので、ご理解とご協力をお願い致します。

被災地へ学生ボランティアとして行って思ったこと

「赤十字の看護大学の学生として、何かできることはないか」「被災地へ行き、自分たちのできることをしたい」との思いを強く持った学生（企画者1名を含め25名）が、3か月の準備期間を経て、平成23年8月31日～9月6日（7日間・車中2泊）、宮城県七ヶ浜地区、岩手県釜石市地区の2班に分かれてボランティア活動を行いました。



自分自身の目で被災地の現状を知りたい

3年生 北原 直樹

自分は兵庫県の出身で、小さい頃に阪神淡路大震災を経験しました。直接的な被害はありませんでしたが、大きな揺れ、崩れた街の記憶が今でもはっきりと残っています。中学・高校時代も、震災の語り部となる人々が身近にいたため、避難所や仮設住宅での困難、生活を立て直す苦労や努力した経験談を何度も聞き、防災意識を高めてきました。3月11日の東日本大震災で、東北大学病院長が「医学生の皆が被災地に来て感じてほしい」と語っていたように、自分の目で被災地を見て何ができるのか考えたいという思いが強く沸き起こりました。同じ意見を持つ愛知県下の大学生と情報交換しながら、夏休み期間ならば1人ではなく赤十字の皆で行けると決意し、3か月間の紆余曲折がありましたが、何とか実行することができました。自分は事前調査の一環として皆より先に被災地に行きました。今後も、このような自主的な活動が継続できればよいと思います。



被災者の思いに寄り添うとは

4年生 立木 真美

4年生5名、2年生3名の総勢8名は、宮城県七ヶ浜において、NPO法人名古屋レスキューストックヤードが運営するボランティアセンターを拠点に、4か所の仮設住宅集会所で、血圧測定やハンド・リフレクソロジーを行いました。集会所では津波の話を聞く機会も多く、

はじめはどう答えたらいいのかわからず戸惑いました。しかし、夜遅くまでおこなったミーティングで、津波の話の傾聴することは被災者の方々の気持ちの整理に繋がるのではないかと、伝えようとしていることを懸命に聴くことが大切！とみんなで意見や思いを共有し、被災者にとってどのような意味があるのか常に考えるようにしました。また、テレビで見た被害の広さが被害の大きさと思っていましたが、話を聴く中で、被災者にとって自分の家が流されてしまった事実は同じであり、勝手に被害が少ないなどと判断することはできないという思いも持ちました。被災地を実際に見て思ったのは、半年が経過しているのに、震災直後の報道とあまり変わらないことでした。被災地が復興するためにはまだまだ支援が必要で、自分のできることは何かを探していきたいと思います。



被災地に必要なこととは何か

4年生 服部 将茂

16名の学生（4年生5名、編入生1名、1年生10名）は、岩手県立大学の学生が中心となって運営しているいわてGINGA-NETプロジェクトに参加しました。釜石地区の仮設住宅にある「お茶っこサロン」の運営を、同じ大学の学生が重ならないように編成されたグループで行いました。「お茶っこサロン」では、他大学の学生と協力して、^{あんばう} 電法や肩たたき、マッサージなどのリラクゼーションを取り入れ、被災者の方々が少しでも楽しく過ごせるような方法を実施していきました。岩手県釜石地区は、今回の震災でも大きく被害を受けた地区の一つです。家族を失いひとりになったお年寄りが自分たちにその時のことを涙ながらに語る様子や、子供たちが突然津波ごっこをして攻撃的になったりする姿から、震災はとても恐ろしいものだったのだと胸の詰まる思いでした。また、ボランティアが何をやっているのか分からないとの声に、はっと気付かされ、その夜に同じグループの学生達と話し合い、次の日は仮設住宅を巡回しました。気が付いたところから声をかけ、草取りやごみ捨てをすると「こんなことをやってくれるんだ。ありがとう。」と言われ、被災者のニーズをアセスメントする難しさとボランティアの責任を実感しました。ボランティアの活動を通して、被災地の方々から学んだことも多く、かつ全国から集まった大学生と交流する機会を持てたことは、今後の自分のあり方を考えるうえでとても刺激になりました。

公開講座

ちょっと太り気味が健康にいい

基礎看護学領域 杉浦美佐子、中島佳緒里、前田節子、
竹内貴子、渡辺弥生

高齢者にとって健康なBMIというのはいくつだろうか。最近の研究では、70歳代の男性が25.5kg/m²、女性が24.1kg/m²の場合に最も生存率が高い結果であった。欧米の報告では、BMI27～30kg/m²が最も心血管系疾患が少ないとするものが多くある。また、2009年の厚生労働省の調査では、40歳の平均余命は、男女とも過体重で最も長く、過体重とやせの平均余命の差は男性7.1年、女性6.3年との驚くべき結果が報告されている。こ



れらの結果から、太ることよりも痩せることを懸念すべきであろう。さらに、高齢者の栄養問題のひとつに、脂肪量の増加とともに骨格筋量が減少するサルコペニア肥満が挙げられる。骨格筋の減少は、下肢に著しく起こることから、運動器の障害（バランス機能や移動能力の低下、転倒の危険）を生じる可能性が高い。今回の講座では、このようなサルコペニア肥満や運動器の障害を予防するために、肥満予防よりも大切なのは、下肢の筋力を鍛え、体のバランス機能を維持することだと強調した。講座に参加された方々からは、「自分の体脂肪や筋肉量、体力を知る機会となった。」「より健康になることを目指して下肢を鍛えたい。」、など感想をいただくことができ、盛況のうちに講座を終了することができた。（文責・中島）

オープンキャンパス2011

本年度もオープンキャンパスを開催しました。

看護大学のハードな面を厳しく(?) お伝えした部分もありましたが、来場者の方からは、「看護大学は忙しくて大変だと思うけど、学生さんの話を聞いたら、思っていた以上に楽しそうに生活を送っていて安心した。」「厳しいけどやりがいがありそう。」「頑張りたい。」等の感想をいただきました。大学の施設を知るだけでなく、大学の雰囲気や学生生活を実際に感じていただけたのではないのでしょうか。



オープンキャンパスで演奏して

3年生 瀬川彩織(Dr)、木谷有花(Vo&Key)、小出千尋(Gt)、
水野文菜(Ba)、野村千晴(Cho)

私たち『Casy』は、軽音部に所属する3年生で構成されるバンドです。大学の課題や授業で忙しい日々の合間を縫って、練習を積み重ねています。まだまだ演奏技術は未熟で舞台経験も浅いですが、趣味も性格も異なる個性豊かなメンバーで、仲良く自分たちの音楽を楽しんでいます。

さて、念願であった学祭での演奏を終えて一段落したところに今回のオープンキャンパスでの演奏のお話をいただきました。演奏の機会をいただけたという喜

びと、学祭とはまた違う舞台への不安を抱えながら本番を迎えました。

当日は立ち止まって聴いて下さる方が予想以上に多く、程良い緊張の下で演奏を行いました。私たちの活動を思う存分宣伝することができました。

また、高校生にとって看護大学は堅苦しい印象があると思います。今回の演奏を見てくださった高校生のみなさんに、明るくて親しみ易い雰囲気が伝わっていたら嬉しいです。看護大学は多忙で勉強も難しいけれど、自分の時間を見つけてサークル活動等に打ち込み、同じ道を志す仲間と共に、充実した生活を送っていることが伝わっていることを願っています。



Academic Library

記憶から記録へ ——看護観を耕す

図書館司書 中尾 明子

紹介する本は新刊「その先の看護を変える気づき；学びつづけるナースたち」である。看護学生、看護師、看護師長による〈物語〉と、スーパーバイザによる看護論や看護職生涯発達論に照らし合わされた〈レビュー〉で構成されている。レビューでは物語（ストーリー）の行間を読むための的確な補足がなされ、看護実



柳田邦男，陣田泰子，佐藤紀子編. その先の看護を変える気づき；学び続けるナースたち. 医学書院，2011



関連図書(写真左から)

佐藤紀子. 看護師の臨床の『知』；看護職生涯発達学の視点から. 医学書院，2007

陣田泰子編著. 看護現場学の方法と効果；いのちと学びのマネジメント. 医学書院，2009

陣田泰子. 看護現場学への招待；エキスパートナースは現場で育つ. 医学書院，2006

践者の成熟のためのフィードバックが促されている。「それは素晴らしいことだ」と。

そして、自らの実践体験をフィードバックして成長していくために、患者とのストーリーの記憶を詩歌であれ、エッセーであれ、記録することの重要性が語られている。

本書の中で、看護師長は〈看護の種を蒔く〉者、と表現もされているが、蒔かれた種は根付き、芽を伸ばし、成長せねばならない。

図書館は、種を受けとめる柔らかな土壌でありたいと願う。学生も看護師も看護師長も「臨床の知」を育むことのできる、鋤き込まれた土壌に。

研究の窓

英語学習のアプローチを考える

一般教養(英語) 准教授 森 久子

本学での英語教育においては、二つの方向性を持っている。一つは英語の実力がある学生の力をより強化する指導であり、もう一つは英語が苦手な学生の教育である。英語力のある学生には、看護の教材を含め、将来国際的に活躍ができるような教育を、また苦手な学生には英語が身近に感じられ、楽しく学べる方法をとっている。例えば、ある作品を題材に、耳で聴いて



理解したこと、読んで理解したことを最後に映像で見るという手段をとっている。同じ作品を多角的に提示することで、「聴いてもわからない」「読んでもわからない」を、「読んだらわかった」「観たらわかった」というポジティブな体験をさせ、さらに理解したいという思いにつなげることを目指している。

さらに、英語教育の中で異なる文化、習慣、考え方に触れることにより、その違いを理解し、容認する広い視野を持つことを期待している。実生活の中で英語がコミュニケーションの手段として実際に使われていることを再認識し、英語をより身近なものとして学び、「多様性の中に生きられる自分」に成長してほしいと思う。

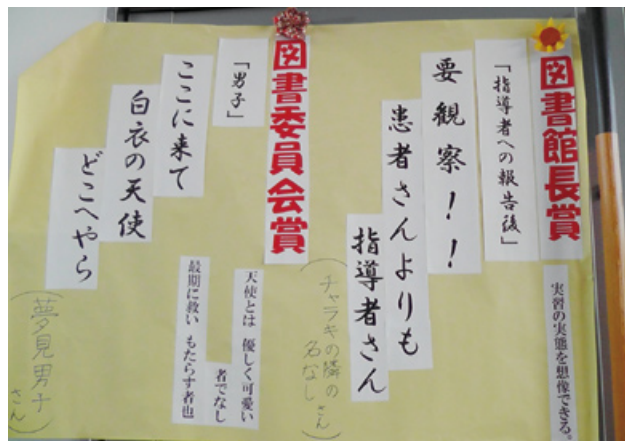
サークル紹介

新たなスタート

LFC 3年生 古田 浩章

私たちはLFC(Library Forest Circle)です。このサークル名には、図書館を森のように本のある場所にしたいという思いが込められています。まだ立ち上がったばかりの新しいサークルです！

主な活動には、「学生選書ツアー」と「川柳コンテスト」というイベントがあります。特に、学生選書はLFCならではの活動です。サークルメンバーみんなで書店に行き、それぞれ自分たちが図書館に必要だと思った本を決め、その中から選別します。学生に必要な本を、学生の視点で決めることができるこの機会を上手に利



用して、図書館を充実させたいと思っています。そのためには、サークルメンバーだけではなく、学生全体の意見を反映させたものにするべきです。これからの課題はたくさんありますが、工夫をしてよりよい選書ができることを目指していききたいと思います。

図書とは関係ありませんが、川柳コンテストも開催しています。私の勝手な思い込みかもしれませんが、最近日常で川柳をよく見かけるような気がします。五・七・五のリズムは私たちにとって馴染みがあり、すてきな作品や面白い作品に出会うと嬉しくなります。同じキャンパスに学ぶ身近な学生が日常のどんな場面を、どのようにとらえて川柳の作品にするのか、とても興味があります。第4回の川柳コンテストは、より多くの作品が投稿されるようにと考えています。

RCT☆LINK

学生ボランティア団体「CHILE」

4年生 川崎 綾子

私たち学生ボランティア団体「CHILE」は全国の学生にバングラデシュという国を伝え、現地の小学校を支援することをコンセプトに活動しています。メンバーは東海三県の学生で構成されている団体です。主な活動は、街頭募金やチャリティイベントの開催で、その収益を支援金としています。チャリティイベントの中では、スピーチ・動画放映を通して多くの学生にバングラデシュのことを伝え、国の現状を知ってもらう



とともに、私たちの活動を通して国際支援の身近さを感じてもらうことを目指しています。

CHILEの活動の成果として、昨年小学校を1校建設することができました。しかしまだまだ数が足りず、教育を受けたくても受けられない子ども達がたくさんいます。現在二校目の校舎建設に向けて活動中です。みなさんも私達と一緒に活動してみませんか？少しでも興味のある方はぜひ一度連絡ください。

携帯HP <http://10.xmbs.jp/chile/>

Information

日本赤十字豊田看護大学 平成24年度入学試験

	募集人数	出願期間	選抜方法	試験日	合格発表	入学手続期間
一般入学試験	55名	平成23年 12月16日(金) ～ 平成24年 1月17日(火) 必着	学力検査(必項2科目・選択1科目) 【必須科目】 ・国語総合(古文・漢文を除く)(配点100点) ・英語I・II(配点100点) 【選択科目】 次の3科目から1科目選択 ・数学I・A ・生物I ・化学I(配点100点)	平成24年 1月28日(土)	平成24年 2月6日(月)	平成24年 2月7日(火)～ 2月16日(木)

公開講座のご案内(12月～3月開催)

講座名	日時・担当	内 容	人数
講座番号① 認知症の方から見える世界	平成23年12月10日(土) 10:30～12:00 老年看護学領域	何回も同じ問いを繰り返す、不安そうにあちこちを動き回るといのは、認知症の方によく見られる症状です。認知症になるとなぜそうなるのかを理解し、認知症の方にどのように向き合うのかを考えます。	40名
講座番号② 赤ちゃん楽しくふれあおう！ ～ベビーマッサージ～	平成24年1月21日(土) 10:00～12:00 母性看護学領域	妊婦あるいは出産後の女性とその家族、ベビーマッサージに興味のある方にモデル人形を使ってベビーマッサージを教えます。	10組 (大人)
講座番号③ ストレスと上手く付き合おう ～リラクゼーションを体験しよう～	平成24年2月18日(土) 10:00～12:00 精神看護学領域	ストレスについて理解し、リラクゼーションの方法とその効果を体験することで、日々のストレス解消に役立たせます。	30名
講座番号④ 生活習慣を見直そう！	平成24年3月17日(土) 10:00～12:00 成人看護学領域	よりイキイキ健康な毎日を送るために、ご自身が行っている生活習慣について、ちょっと見直してみませんか？今年のテーマは「運動」です。運動を習慣的に取り組むためのコツや運動の効果などについてお話し、気軽にできる体操・運動を紹介します。	40名

受講を希望される方は、企画・地域交流課【0565-36-5228】までお問い合わせください。 ※定員に達し次第締め切ります。

平成22年度 消費収支計算書

平成22年4月1日 ～ 平成23年3月31日

消費収入の部 (単位：円)			
科 目	予算額	決算額	差 異
学生生徒等納付金	925,550,000	910,445,000	15,105,000
手数料	19,140,000	26,103,500	△ 6,963,500
寄付金	3,000,000	6,952,800	△ 3,952,800
補助金	131,629,000	93,315,368	38,313,632
国庫補助金	131,581,000	93,266,000	38,315,000
地方公共団体補助金	48,000	49,368	△ 1,368
資産運用収入	19,926,000	14,681,011	5,244,989
事業収入	6,650,000	6,749,300	△ 99,300
雑収入	3,555,000	3,202,117	352,883
内部取引	8,000,000	6,336,735	1,663,265
帰属収入 合計	1,117,450,000	1,067,785,831	49,664,169
基本金 組入額	△ 38,219,000	△ 20,889,166	△ 17,329,834
消費収入の部合計	1,079,231,000	1,046,896,665	32,334,335

消費支出の部 (単位：円)			
科 目	予算額	決算額	差 異
人件費	603,554,000	556,688,459	46,865,541
教育研究経費	442,926,000	421,991,028	20,934,972
管理経費	50,797,000	45,513,467	5,283,533
資産処分差額	0	860,231	△ 860,231
内部取引	16,454,000	17,743,191	△ 1,289,191
予備費	1,000,000	0	1,000,000
消費支出の部	1,114,731,000	1,042,796,376	71,934,624
当年度消費支出超過額	△ 35,500,000	4,100,289	
前年度繰越消費収入超過額	467,384,000	892,915,542	
翌年度繰越消費収入超過額	431,884,000	897,015,831	

平成22年度の財務状況は、L L 教室等情報機器更新等により35,500千円の支出超過予算でしたが、経費節減努力により安価で更新することができ、4,100千円の収入超過となりました。

編集後記

今年も残すところ、1ヶ月余りとなりました。東日本大震災に始まり、各地では台風による被害も目立ち、災害につきた1年でありました。前号に引き続き、今回は学生による震災に関連した活動状況をお届けすることができました。その他には、いとすぎ祭を初めとして、体育祭、サークル紹介、新入生合宿研修、後援会会長挨拶、公開講座、オープンキャンパスについて活動報告をさせていただきました。1ヶ月遅れとなりましたが皆さまのご協力にて、「いとすぎの丘」Vol.14が無事に発行できましたことを委員一同、心より感謝いたします。

いとすぎの丘 Vol.14

発行日／2011年11月

編集・発行／日本赤十字豊田看護大学

広報・公開講座委員会、企画・地域交流課



〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33

TEL 0565-36-5228 FAX 0565-36-5256

E-Mail kikaku-ka@rctoyota.ac.jp

HP <http://www.rctoyota.ac.jp/>